

# News Letter vol.52 2012.10.12

## オーストラリア国立大学 (ANU) への訪問

派遣国・機関：オーストラリア・オーストラリア国立大学  
2012.7.13~2012.9.22

様々な点で非常に恵まれた研究教育機関です。ここではその中でも特に印象深かったことを紹介します。

### ◇◇ 研究支援体制 ◇◇

テクニカルスタッフの方々の専門性や技術力が非常に高く、学生の実験指導の大部分はこの方々によるものです。彼らは非常に熱心に学生を指導しますし、彼らに対する学生の信頼も篤いように感じました。ある時など、日曜日の夜にテクニカルスタッフと学生が二人で実験をしていました。これには驚きました。

私にとって最も有難かったのは、植物の管理をする専門のスタッフがいたことです。指示すればその通りに水遣り、肥料遣り、薬品散布までやってくれます。「毎日水遣り (Water every day [写真参照])」をお願いしたのですが、こちらも土日をあけずにきちんとやってくれました。温室では教育用と称して様々な種類の植物を管理していました (写真・・・どうも彼らは好きでやっているような感じでした)。 ↑



温室内の様々な植物 (上 2 枚) 好きで育てているのかも？

専門の管理スタッフに水遣りしてもらった植物(上) (カード)「Water Every Day」



その他、IT 関連スタッフ、白衣の洗濯から薬品管理など細々したことを一手に引き受けてくれる方々 (オバちゃんが多い)、ちょっとした工事から力仕事全般を担当している方々 (オイちゃんが多い)、手製の実験器具・装置を注文通りに作ってくれる職人さん達など様々な役割を持った人が大勢いました。私が感心したのは、皆がプロフェッショナルとしてのプライドを持ちそれぞれの仕事に当たっていることです。少なくとも私にはそう見えました。

### ◇◇ 人種の多様性 ◇◇

これは必然的にそうになっているに過ぎないのですが、オーストラリアの特性を考える場合に見逃せない点です。つまり、地理的にアジアに位置するため、アジア人の割合がヨーロッパやアメリカよりも高い。特に中国やインド出身の方々は多く、人口比でいずれも 1%を超えているとのこと。大学ではその比率はさらに高かったように感じます (直観的には、併せて 20%)。日本では、例えば講義を考えると、大抵の場合全員が日本人です。これは異常なことかも知れません。

教育のバックグラウンドが異なる人々が集まっていることは研究面でもプラスのようです。全く違うことを考えていることは稀だと思いますが、それぞれがその時々で注目している点が大きく異なるようです。そうした人とのディスカッションはいつも刺激的で、私自身、斬新でユニークなアイディアに触れることが多々ありました。ANU の強さ、さらにはオーストラリア社会の活力の秘訣も、一つは人種の多様性にあるのではないのでしょうか？

### ◇◇◇

派遣中、得難い経験をしていることを十分に認識して過ごすことができたと思います。この場を借りて関係者の方々にお礼申し上げます。